

# ニューバースパイルII

## 信頼と実績が生む 回転貫入鋼管杭

多くの建築現場と、実験で  
実証された高性能を、  
安全で、経済的に、確実に提供します。

(財)日本建築総合試験所

## 建築技術性能証明

スウェーデン式サウンディング調査で  
建築技術性能証明を取得



幅広いニーズに対応します

### 高支持力

多くの施工実績から生まれた独自の先端拡底羽根

### 建柱車で施工可能

### 環境に配慮

施工機械はコンパクトで低騒音・低振動。  
水質汚染や土壌汚染の心配が無く残土も出ません

### 経済設計

バリエーション豊富であるため、  
地盤、建物に応じた設計が可能

### 安全設計

室内、施工試験により杭の安全性を検証

### 確実な施工管理

## ニューバースパイルⅡ



### 杭の長期許容鉛直支持力

$$Ra = \frac{1}{3} \{ \alpha_{sw} \cdot \bar{N}' \cdot Ap + (\beta_{sw} \cdot \bar{N}'_s \cdot L_s + \gamma_{sw} \cdot \bar{N}'_c \cdot L_c) \varphi \} \text{ (kN)}$$

$\bar{N}'$  : スウェーデン式サウンディングによる換算N値

$\alpha_{sw}$  : 杭先端支持力係数

砂質土地盤(礫質土地盤を含む)、 $\alpha_{sw} = 280 (6.5 \leq \bar{N}' \leq 25)$   
 粘性土地盤、 $\alpha_{sw} = 280 (3.5 \leq \bar{N}' \leq 25)$

$\beta_{sw}$  : 砂質土地盤における周面摩擦に関する支持力係数  $\beta_{sw} = 1.2$

$\gamma_{sw}$  : 粘性土地盤における周面摩擦に関する支持力係数  $\gamma_{sw} = 1.4$

$\bar{N}'$  : 杭の先端付近のN'の平均値

$Ap$  : 杭先端の有効断面積(m<sup>2</sup>)

$$Ap = \pi D^2 / 4 + 0.43 \pi (D_w^2 - D^2) / 4$$

$\bar{N}'_s$  : 杭の周囲の地盤のうち砂質土に接する部分のN'の平均値

$\bar{N}'_c$  : 杭の周囲の地盤のうち粘性土に接する部分のN'の平均値

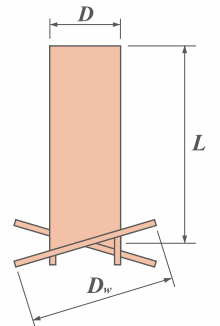
$L_s$  : 杭の周囲の地盤のうち砂質土に接する長さの合計(m)

$L_c$  : 杭の周囲の地盤のうち粘性土に接する長さの合計(m)

$\varphi$  : 杭本体軸部の周長(m)

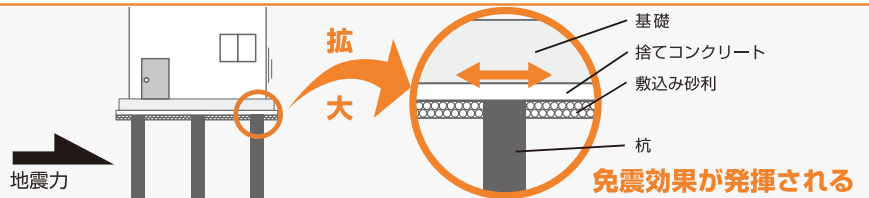
### 標準寸法

軸部の杭径 $D$ (mm)	76.3	89.1	101.6	114.3	139.8	165.2	190.7
拡底羽根径 $D_w$ (mm)	200	200	250	250	300	400	400
		250	300	300	400	460	460



### 杭頭処理の例

地震力に対して杭と基礎の縁を切ること  
 で免震効果が発揮される場合があります。



指定工事店

日本基礎地盤 株式会社

〒337-0003

埼玉県さいたま市見沼区深作2-23-6 エムエム大宮ビル101

TEL 048-682-7771(代) FAX 048-682-7772

E:mail info@kisojiban.jp